

優秀賞

宮城県

蔵王町立遠刈田中学校 三年

佐藤 菜月

消防団は地域の誇り

私の父は消防団員です。物心ついた時には法被を着た父の姿を見ていたので、十年以上消防団員として活動してきたのだと思います。

父は消防団の中で『ラッパ班』に所属しています。ラッパ班とは、消防防災訓練の時に、行進や放水の開始と止めなどの合図のラッパを吹くのが仕事です。特に出初め式での『殉職者追悼』のラッパには特別な思いがあると、以前父が話してくれました。この音色を聞くと、消防団員は皆、殉職者の勇氣と責任感を讃え、同時に残された人々のことを想うのだそうです。そして（人命救助は大切。でも自分たちが安全に家族のもとに帰ることを忘れてはならない。二次災害は絶対に出してはいけない。）という思いを強くするというのです。私はラッパにはそんな意味もあるのかと感心し、出勤する父の姿を思い出しました。

父の消防団員としての活動は、ラッパ班の仕事だけではありません。地域で火事や豪雨などの災害があれば、真夜中でも出勤します。特に夜の火災の時は、消防団員は消火した後も朝まで番をするのが決まりですが、朝には皆が当たり前のように仕事に行くのです。

蔵王町ならではの出勤も多くあります。それは山岳救助です。山菜採りやきのこ採りに出かけて遭難した人の捜索は、何日間も続く

こともあります。滑落の危険があり、熊も多い山での捜索はとても困難です。しかし、ここでも消防団は活躍します。地元の山を知り尽くした消防団員だからこそ、他の捜索隊には分からない谷や沢まで探すことができるのです。消防団の活躍で助かった命もあると聞いて、私は何だか誇らしい気持ちになりました。

私の通う中学校の学区では、幼・小・中の子どもと保護者、地域住民が各地区の公民館などに集まって行う防災訓練があります。消防団の方々も毎回休日返上で協力してくださいます。消火器やAEDの使い方、炊き出し訓練などを一緒にやる中で、色々な事を教わったり、雑談をしたりして、つながりが生まれています。今年度は中学生が中心となって、地域の危険箇所マップを一緒に作り、私たちが知らないことを沢山教えてもらいました。ある消防団員の方からは、私たちが地域の安全のことを真剣に考えてくれてうれしいと言われ、私もうれしい気持ちになりました。

消防団員は皆それぞれに仕事を持ち、何かあったらすぐに駆けつけます。時には命の危険もあるような災害現場で、力の限り活動し、くたくたになって帰ってきてても文句を言うことはありません。消防団は、私たちの大切なものを守ってくれるまさに『ヒーロー』です。私は父を、消防団の皆さんを尊敬しています。そしていつか、自分も地域のために活躍できる人間になりたいと思うようになりました。これからも消防団の方々や地域の皆さんに色々教えてもらいながら、自分に何ができるかを考え、実行していきたいと思っています。

